

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立湊小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上については、算数科を中心に見直しを立てる場面で学習したことをまとめる場面に焦点を当て、指導方法の改善に取り組んだ。その結果、主体的に問題解決に取り組む姿が見られ始めているが、さらに、長期的なプロセスを児童と共有し、学習をデザインしていくことに取り組む必要がある。 ・いきいきと充実した学校生活づくりについては、児童の発意で決めた「友達を大切にしたい湊小」の合言葉のもと児童が主体的活動に取り組み、落ち着いた生活を送ることができた。今後も日常的に凡事徹底を大切にし、学校生活の地盤を固めていく必要がある。 ・地域のひと・もの・こととつながり、地域と共に歩む学校づくりについては、感染症対策に努めながら可能な限りの活動は行うことができた。さらに学校主体の地域交流を推進し、効果的な家庭・地域との連携・協働体制を構築していく必要がある。
2 学校教育目標	豊かな心もち生き生きと自分の「よさ」を発揮できる湊っ子の育成

3 本年度の重点目標	①学力向上 「課題に挑む子どもたちへ・子どもが実力を発揮できる環境へ」 ②充実した生活 「安心して通える学校へ・安心して活動できる環境づくりへ」 ③地域と共に 「地域と共に歩む学校へ・子どもは地域の宝」
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○児童の目標達成率を達成させる。低学年100冊100%・中学年80冊100%・高学年60冊80%	・定期的に校内研修会等で、マイプランの進捗状況を確認する。各学年の取組を共有する体制を構築し、切磋琢磨して更なる取組の促進を図る。							
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学習に対する意識調査において、関心及び主体性に関する質問において、肯定的に回答した児童の割合を80パーセント以上。	・授業の在り方について工夫を行い、児童が自ら学ぶ力を高める。 ・児童が学ぶ目的や学びへの意識向上のための工夫を行い、学ぶ力を育む。 ・図書室の活用や家庭を推進する。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳科の「生命尊重」に関する授業を年間1回以上行う。 ○身の回りの人に「ありがとう」の気持ちを伝える回数を増やす。	・教育の日等に「ふれあい道徳」として道徳授業の公開を行う。 ・体験活動を通して、友だちとの関わりや地域のひととのふれあいの機会をふやす。							
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生活アンケートで「いじめをゆるさない」気持ちを持つ子ども85パーセント以上を目指す。	・いじめ防止に取り組む、いじめ発見や対応について職員連絡会や職員会議等で気になる児童の情報交換を行う。							
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・各種活動で、児童に活動の見通し、学びのふり取り、及び自らの達成感を感じさせる活動を仕組む。 ・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。							
	○児童生徒が、「こんな自分になりたい」と具体的な自己実現の目標を設定する教育活動	○自分なりの「ふりかえり」を重視した効果的・効率的なキャリアパスポートの記述を進める。	・各種活動で、児童に学びの振り返りを実施し、達成感を感じさせる。 ・キャリアパスポートを計画的に活用する。							
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●望ましい生活習慣の形成に向けて、生活習慣アンケートを全校に実施する。達成率を各学年全項目の平均65%を目指す。また、朝食を毎日食べる児童の割合、95%を目指す。 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上。そして、食の自己管理能力の育成に向けて、手作り弁当に取り組む。	・食育月間の6月11月の2回に1週間「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣アンケートを実施する。毎回振り返りを各自行う。達成率及び児童、保護者の取り組んだ感想は、保健だよりにも掲載し保護者への周知を図る。 ・各学期に1回「手作り弁当の日」を設定し年3回実施する。毎回ワークシートに感想を書く。写真や感想を廊下に掲示したり、保健だよりに掲載したりすることで、食への興味関心を高める。							
	○たくましい体づくりの推進	○外遊びが好きな児童80%以上を目指す。持久走大会へ向けてのマラソン週間や縄跳び運動を通して、持久力の向上を目指す。	・持久走大会の4週間前から、業前で、持久走カードを使用し、運動場50周を目標に取り組み、達成率90%を目指す。 ・縄跳び2分跳び達成率全校で50%を目指す。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限である月45時間・年360時間以内を遵守する。	・毎週1回の定時退勤日を定め、完全実施をめざす。 ・会議時間の終了を退勤時刻の15分以上前と設定し、90%以上の割合で達成する。							
	○教職員の役割の見直しとICT・専門スタッフの活用による効果的・効率的業務の創造	○教職員のワーク・ライフ・バランスのとれた生活を実現し、健康でやりがいを持って働くことができるICT・人的環境を整備する。	・日常的に教職員の業務の平準化を意識させ、ICT・専門スタッフの活用や教職員同士で教え合う体制を醸成し、ICTも活用して業務改善に取り組む。							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	重点取組内容	成果指標(数値目標)								
○地域とともにある学校づくり	○地域人材の活用や地域との交流	○地域人材を各学年で年間1回以上活用する。 ○児童が年間1回以上、地域の行事に参加する。	・公民館、地域団体などとの連携を図り、活動を展開する。 ・「人材リスト」を活用し、地域人材と日常的につながりをもつとともに、地域行事の日時と内容を紹介し、児童の参加を促す。							
○特別支援教育の充実	○一人一人の個性や特性を生かした指導及び支援の充実	○校内支援会議などを充実させ、支援が必要な児童に対して、連携し、個に応じた対応ができると答えられる教員を80%以上にする。	・必要に応じてケース会議を開き、支援が必要な児童の情報を共有する。困り感を持つ子どもや保護者に寄り添い、校内支援会議を開き、支援していく。							

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--